

令和3年度

施策評価表(令和2年度の実績評価)

記入年月日
令和 3 年 6 月 18 日

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	佐谷 智
5-7	施策名	廃棄物の抑制と適切な処理	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目 的	施策の対象		対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	・市民 ・市内で発生した廃棄物(ごみ・し尿)	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197		
				実績値	41,278	40,483	39,692	38,905			
		②市内のごみ総排出量(事業所分を除く)	t	見込値	10,760	10,755	10,750	10,745	10,740		
				実績値	9,395	9,446	9,384	9,585			
		③し尿処理量	t	見込値	15,050	15,000	14,950	14,900	14,850		
				実績値	14,628	15,610	16,100	15,067			
	施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	ごみの発生が抑制され、適正な処理が行われている。	①1人1日当たりのごみ排出量	g	目標値	680	680	680	680	680		
				実績値	626	639	656	673			
		②資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)	%	目標値	9.2	9.4	9.6	9.8	10.0		
				実績値	9.4	8.9	7.4	9.0			
		③可燃ごみの搬入量	t	目標値	8,780	8,760	8,740	8,720	8,700		
				実績値	8,229	8,292	8,301	8,289			
		④不燃ごみの搬入量	t	目標値	470	440	410	380	350		
				実績値	284	309	386	431			
		⑤資源ごみの収集量	t	目標値	910	920	930	940	950		
				実績値	882	845	697	865			
成果指標設定の考え方		○発生が抑制されるは、①「市民1人当たりのごみ排出量」が減れば、ゴミの減量化につながると考えた。 ○適正に処理がされるについては、②資源物比率、③④可燃・不燃ごみの搬入量、⑤資源ごみの収集量で把握する。									
成果指標の把握方法と算定式等		○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○対象の「市内のごみ総排出量」は、事業所から排出されたもの(事業系一般廃棄物)は除いている。 ○ごみの発生を抑制していく意図の経年変化を見るために、成果指標を1人1日当たりのごみの排出量(市内のごみ総排出量/常住人口)とした。 ○適正処理については、資源物比率を見ることで把握する。 ○可燃、不燃ごみの搬入量は環境センターへの搬入量									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績 比較	☐ 成果がかなり向上した	☒ 成果がどちらかといえば向上した	☐ 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	☐ 成果がどちらかといえば低下した	☐ 成果がかなり低下した	
背景・ 要因	・1人1日当たりのごみ排出量は、令和元年度が656g、令和2年度は673gで、前年度と比べ17g増加し成果が低下している。 ・資源物比率は、令和元年度が7.4%、令和2年度が9.0%と1.6%増加しており成果が向上している。 ・可燃ごみ搬入量は、令和元年度が8,301t、令和2年度は8,289tで、前年度と比べ12t減少しており成果が向上している。 ・不燃ごみ搬入量は、令和元年度が386t、令和2年度は431tで、前年度と比べ45t増加しており成果が低下している。 ・資源ごみの収集量は、令和元年度が697t、令和2年度が865tと、168t増加しており成果が向上している。 コロナ禍の影響により、可燃物の排出量が減っても1人1日当たりのごみ排出量が増加しており、不燃物、資源物も全体的に増加したと思われる。		
2) 成果目標の達成状況			
実績 比較	☐ 目標値のすべてを上回った	☐ 一部の成果指標で目標値を上回った	☐ 目標値どおりの成果であった
	☒ 一部の成果指標で目標値を下回った	☐ 目標値のすべてを下回った	
背景・ 要因	・1人1日当たりのごみ排出量は、令和2年度の目標値680gに対し、673gで7g目標値を上回った。 ・資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)は、令和2年度の目標値9.8%に対し9.0%で、0.8%目標値を下回った。 ・可燃ごみ搬入量は、令和2年度の目標値8,720tに対し、8,289tで431tで目標値を上回った。 ・不燃ごみ搬入量は、令和2年度の目標値380tに対し、431tで51t目標値を下回った。 ・資源ごみの収集量は、令和2年度の目標値940tに対し、865tで75tで目標値を下回った。 成果目標の達成状況については、1人1日当たりのごみ排出量、可燃ごみ排出量で目標値を上回ったが、2つの項目で目標値を下回ったことが重視されることから「一部の成果指標で目標値を下回った」と評価した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
令和2年度は、「資源ごみ分別収集事業」、「ごみ減量化啓発事業」の貢献度が大きかった。 ・資源ごみ分別収集事業においては、毎月各行政区から排出された資源ごみを売却し、行政区に報奨金として実績に応じて還元した。 ・ごみ減量化啓発事業においては、広報誌や市HP等を通じて積極的に啓発を行い、ゴミの減量化に努めた。	・資源ごみ収集の増加するためには、不燃物と可燃物、ごみの減量化を合わせて考え、解りやすいごみの出し方解説など、家庭での分別取組対策が必要である。 ・広報やイベント等を通じて積極的に啓発を行い、ごみ減量化を促すとともに、リサイクル製品を細かに分別する取組を展開する。